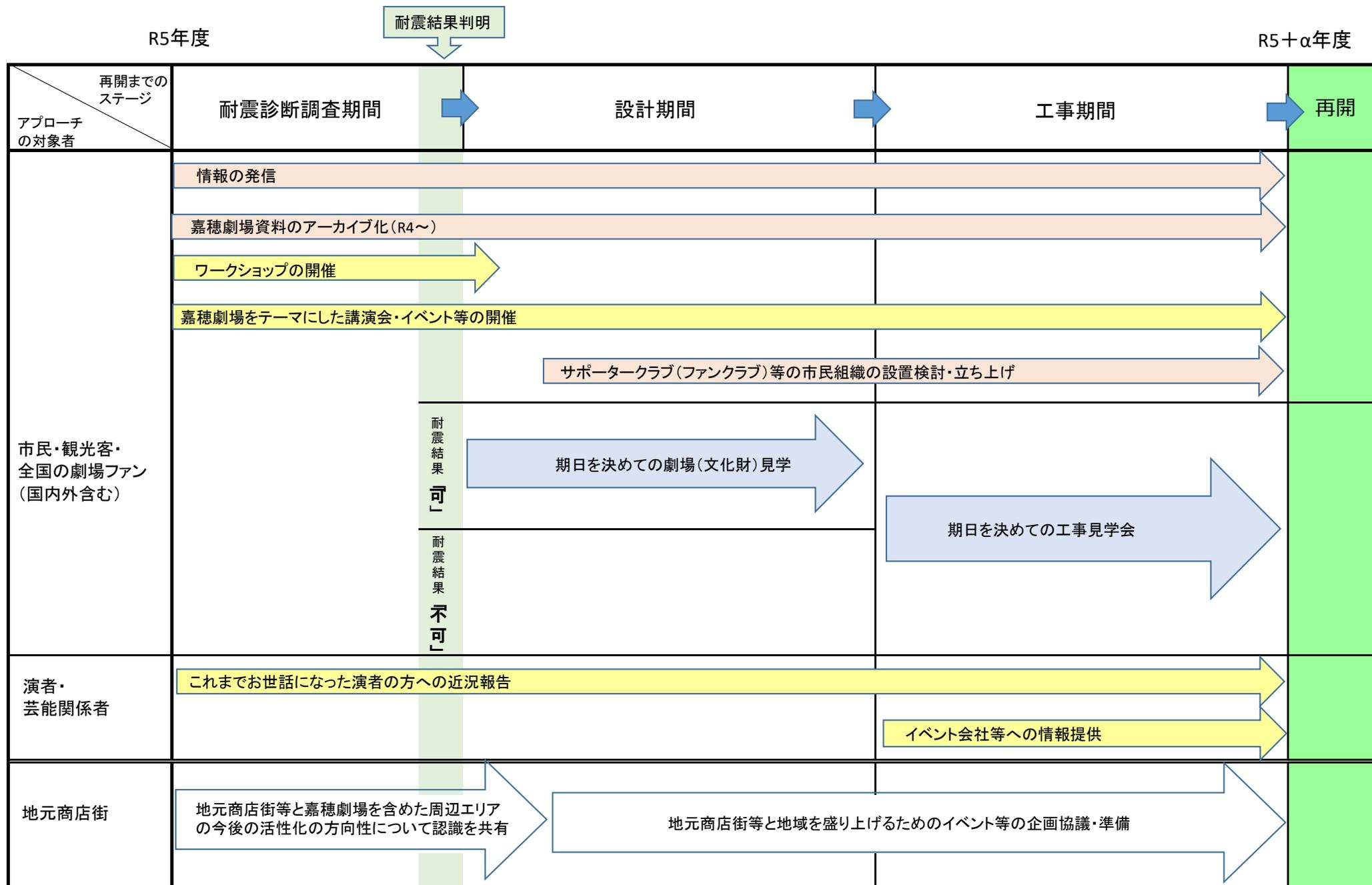


<ソフト事業を時系列で整理>



嘉穂劇場再開までに取り組むこと（ソフト事業を中心に）【案】

＜ソフト事業の性質による整理＞

事業の性質	対象者 (※)	事業名	概要	事業目的・その他
継続的な事業	劇場ファン	情報の発信	Web、SNS、紙等の各種媒体を活用して、定期的に嘉穂劇場の現在の状況や魅力を発信する	劇場の魅力を伝える 市民・劇場ファン等の関心をつなぎとめる
	劇場ファン	嘉穂劇場資料のアーカイブ化	嘉穂劇場に関連する文化財情報や各種資料を調査・整理してアーカイブ化を進める	
	劇場ファン	サポータークラブ（ファンクラブ）等の立ち上げ	再開後の劇場の運営等に参画して下さる「市民」を募集	
見ながらの（タイムニングを）事業	劇場ファン	ワークショップの開催	劇場の運営等に関するワークショップを開催し、運営方針等に反映させる	新たな魅力の掘りおこし 新たなファンの獲得
	劇場ファン	講演会・イベントの開催	劇場に関する講演会や、これまでの劇場の歴史など展示する企画展を開催	
	演者等	これまでお世話になった演者の方へ近況報告	NPO法人経営時代に劇場を利用し、支援して下さった演者の方々に嘉穂劇場の現況を報告し、かつてのつながりを再構築する	開館後の積極的な活用を促すためのプロモーション活動 ご貢献に下さる演者の獲得
	演者等	イベント会社等への情報提供	再開時期が判明した時点で、イベント会社等へ劇場の利用を案内	
期間限定の事業	劇場ファン	劇場（文化財）見学会の開催	耐震調査の結果が、現状でも入場が可能と判断された場合に、期間限定の劇場（文化財）見学会を開催	ワクワク感を高める 希少体験により、見学者による発信力に期待 見学会の様子もWeb、SNS等で発信
	劇場ファン	工事見学会の開催	劇場の耐震や老朽化対策の工事実施期間中には、期日と入場者数を制限して、工事の様子を見ていただく見学会を開催	

(※) 劇場ファン＝市民・観光客・全国の劇場ファン（国内外含む）、演者等＝演者・芸能関係者口

飯塚市における官民連携による公共サービス提供の手法事例

	直営	指定管理者制度	長期包括委託	DBO方式 (Design Build Operate)
民間の 業務範囲	資金調達	資金調達	資金調達	資金調達
	設計	設計	設計	設計
	施行	施行	施行	施行
	運営・維持管理	運営・維持管理	運営・維持管理	運営・維持管理
	利用料金の収受	利用料金の収受	利用料金の収受	利用料金の収受
	大規模修繕・改修更新	大規模修繕・改修更新	大規模修繕・改修更新	大規模修繕・改修更新
特徴・ 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地方公共団体の行政意向が発揮できる。 ✓ 経営ノウハウに乏しく維持管理経費の削減が期待できない。 ✓ 民間導入型と比べコストが高くなりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設の使用許可等にかかる権限を民間事業者に移転したうえで、民間事業者が公の施設の運営を行うことが可能である。 ✓ 比較的短期の事業期間とすることが一般的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 複数業務を複数年度にわたって包括的に民間事業者に対し発注する方式である。 ✓ スケールメリットや学習効果が発揮され、コスト削減が可能である。 ✓ 比較的短期の事業期間とすることが一般的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設整備をした者が運営等を実施することで効率的な運営等が可能である。 ✓ 好況が資金を調達するため、資金調達コストは民間資金よりも小さくなるが、事業期間を長期化する合理的な理由が経ちにくいケースもある。
飯塚市の事例	旧伊藤伝右衛門邸	イヅカコスモスコモン	オートレース場	いづかスポーツ・リゾート ザ・リトリート
(参考)他の劇場の事例	内子座	八千代座		

答申の構成（案）

◎最終答申の整理についての考え方

令和4年11月に提出した中間答申をベースにして、第6回以降の会議で協議した内容を追加し、最終答申にまとめようとするもの。

このため、中間答申に一部修正や追加記載を行い、最終答申を取りまとめる。

◎最終答申の構成（案）

はじめに

.....	= 中間答申からの構成変更（追加）
.....	= 中間答申からの文言修正
.....	= 中間答申からの内容追加

I 答申

- ・ 嘉穂劇場の文化財としての価値を損なうことなく、地域経済の活性化に寄与する活用方策について
- ・ 嘉穂劇場と飯塚市文化会館をはじめとする文化施設や周辺商業施設との連携による活用方針について
- ・ まとめ

II 答申に至る協議・考え方の整理

- 1 嘉穂劇場の評価
 - (1) 文化財、芝居小屋としての評価
 - (2) 市民、関係者から見た評価
- 2 これからの嘉穂劇場が担っていく性格の整理
 - (1) これからの嘉穂劇場が担う性格
 - (2) 嘉穂劇場とコスモスコモンとの性格の整理
- 3 これからの嘉穂劇場に期待されること(ターゲットと機能)
- 4 嘉穂劇場と地域経済の活性化
 - (1) 劇場としての嘉穂劇場と地域経済の活性化
 - (2) 観光資源としての嘉穂劇場と地域経済の活性化
- 5 再開のために取り組むべきこと
 - (1) ハード事業の視点から
 - (2) ソフト事業の視点から
- 6 嘉穂劇場再開に向けた様々な提案
- 7 嘉穂劇場再開の時期について

結びに

添付資料

- 1 委員名簿
- 2 諮問書
- 2 委員会の開催経緯
- 3 関係者アンケートの概要
- 4 嘉穂劇場興行の歴史

嘉穂劇場等文化施設の活用の方策に関すること
(案)

中間答申から修正、追加した記述を赤字で表記
網掛け部分は資料3の網掛け箇所と連動

令和 年 月 日

飯塚市文化施設活用検討委員会

はじめに

1931(昭和6)年、前身の劇場が火災、台風という不運が重なり倒壊した中であって、この地に根付いた劇場文化の灯を絶やすまいと、江戸時代の歌舞伎様式を伝える木造2階建ての芝居小屋が飯塚の地に再建されました。嘉穂劇場です。

以降90年もの間、途切れることなく運営を続け、その間2003(平成15)年7月の大水害で壊滅的な被害を受けるも、多くの芸能人や地域の人々に支えられ復興した嘉穂劇場でしたが、2019(令和元)年末に全世界で発生した新型コロナウイルス感染症は多くの演劇や音楽イベントを中止に追いやり、嘉穂劇場もやむなく2021(令和3)年5月に運営母体のNPO法人嘉穂劇場が解散し、休館せざるを得ない状況になりました。

2021(令和3)年9月に飯塚市がNPO法人嘉穂劇場から贈与を受けた嘉穂劇場について、今後とも魅力ある施設として活用するための方策等について審議をすべく、飯塚市文化施設活用検討委員会(以下「活用検討委員会」)は2022(令和4)年3月23日に飯塚市教育委員会から「嘉穂劇場等文化施設の活用の方策に関すること」の諮問を受けました。

これを受け、2023(令和5)年●月●日まで●回にわたる活用検討委員会開催によって各種基本情報を得ながら委員で審議を重ね、その結果を取りまとめましたので、ここに答申いたします。

なお、活用検討委員会では毎回それぞれ専門の立場から活発な議論が交わされ、本答申に記載した内容以外にも様々な提案や指摘があったところです。このため、答申書には答申に至る協議の内容やその背景となる考え方なども整理して記載しております。嘉穂劇場の再開に当たっては、協議を重ねてきた内容にも十分配慮いただき、具体化に取り組んでいただきたいと思います。

今回の検討委員会の議論の中で、嘉穂劇場は改めて飯塚を含む筑豊の歴史を語るだけでなく、ノスタルジックな雰囲気は逆に多くの人々の共感を生み、現代に新しい形で歴史や文化芸術を発信することのできる、飯塚市の貴重な財産であることを確認しました。

嘉穂劇場が再開した暁には、劇場の多様な活用によって地域の中核的施設となり、地域の賑わいを創造するとともに、市民をはじめ演者の方々や海外の方々からも愛され、親しまれる劇場となっていくことを心から願っております。

I 答申

嘉穂劇場等文化施設の活用の方策に関すること

(1) 嘉穂劇場の文化財としての価値を損なうことなく、地域経済の活性化に寄与する活用方策について

1931（昭和6）年に建造された嘉穂劇場は、石炭により繁栄した筑豊の歴史と、そこで生きてきた人々の暮らしや文化を今に伝える貴重な建造物です。明治期から昭和初期にかけて、遠賀川流域一帯には約50もの劇場が開設されたようですが、今日まで残る劇場は嘉穂劇場だけであり、室内においても当時の意匠や舞台機構が保存継承されています。このことにより、嘉穂劇場は2006（平成18）年に国登録有形文化財となりました。

このような文化財的な評価に加え、芝居小屋としても国内に現存する芝居小屋の中では最も規模が大きく、時代の変化を受けつつも90年もの間形を変えずに運営が継続された唯一の劇場であり、現存する芝居小屋の中でも際立った特徴を持つ、評価の高い劇場です。

このように希少性が高く、この地の歴史を語ることができる嘉穂劇場は、本市を特徴づける貴重な財産、強みとしてこれからも活用していくことで、人々の交流を生み、経済活動を活発にし、地域の賑わいを創造することができると思います。

かつて嘉穂劇場は人々が楽しみを求めて集まる場所、娯楽の殿堂でした。嘉穂劇場が時代を超えてこれからも人々の出会いと感動をもたらすことのできる施設として多くの人々から愛される施設であるよう、その活用の方策として、以下のとおり嘉穂劇場に4つの性格を持たせることを提案します。

- 今後とも劇場としての性格を持ち続けていくこと
- 劇場として使用しない時には、多目的公共施設としての性格を持つこと
- 観光資源として機能する施設としての性格を持つこと
- 文化財としての価値、性格を持ち続けていくこと

時代を超えて今に残る嘉穂劇場が、これまでの公演内容や利用のしかたにとらわれることなく、新たなエンターテインメントを提供し、飯塚市の文化芸術の振興に欠かせない施設として、長く愛されていくことを期待しています。

嘉穂劇場等文化施設の活用の方策に関すること

(2) 嘉穂劇場と飯塚市文化会館をはじめとする文化施設や周辺商業施設との連携による活用方針について

嘉穂劇場は中心市街地に位置し、周辺には飯塚市文化施設「イイツカコスモスコモン（以下「コスモスコモン）」や図書館、公民館、男女共同参画推進センターを併設するイイツカコミュニティセンターが立地するなど、飯塚市民の文化活動と知的好奇心を満たすエリアに位置しています。さらに、周辺には江戸時代の長崎街道の飯塚宿跡が存在し、寺院や史跡などが数多く残る場所でもあります。

近年、実施された中心市街地活性化事業によって、居住機能と多様な都市機能を集積させるコンパクトなまちづくりを展開した結果、中心市街地の居住者は増加し人々の往来も徐々に増加していましたが、2019（令和元）年末に発生した新型コロナウイルス感染症の影響によって、人々の往来とふれあいの機会は大きく減少し、ウィズコロナ政策によって、徐々に人々の交流機会は増加してきているものの、中心商店街の人通りはまだ以前のように回復していません。

一方で、生活に様々な制約が求められるコロナ禍にあって、人々に心の安らぎや明日への希望を与えてくれるものは文化や芸術であることも、改めて確認することができました。飯塚市にコスモスコモンと嘉穂劇場が近接立地していることは、飯塚市の強みであり財産です。この両者について、「コスモスコモンは市民の文化に触れるすそ野を広げる役割をもつ施設として、一方、嘉穂劇場は他にはない飯塚の『とんがった（文化・芸能の）魅力』を引き出す施設として」役割・性格を整理し、両者が連携を図っていくことが本市の文化振興の発展、地域の活性化に大いに寄与するものであると考えます。

劇場周辺の商店街については、前述のとおり人通りは減少傾向にあり、店舗も減少しています。中心市街地にある劇場としての性格を持つ嘉穂劇場が、地域の賑わいづくりに役割を果たすこととして、平日の賑わいをいかにつくることができるかが重要になってきます。

一方で、飯塚市内には令和4年11月にオープンした大型農産物直売所「カホテラス」や令和5年夏の「ゆめタウン」開業によって、交流人口が大きく増加する明るい兆しが見えています。地域経済の活性化においては、これら増加する交流人口を「点」で存在する各施設だけで受け止めるのではなく、市内の商業・観光施設と結び

つけ、エリア全体で本市を訪れる人々を楽しませる要素を様々に持ち合わせていくことが求められます。

そのためには、エリア全体の一角を担う嘉穂劇場やコスモスコモンのある中心商店街の商業エリアにおいても、まちの賑わいづくりのためにイメージするゴールを共有したうえで、この地域の明確な特色やワクワク感を発信できるエリアとなることが求められます。

この取り組みは、観光資源としての嘉穂劇場の視点からも同様に求められることであり、来場者が嘉穂劇場だけに留まるのではなく、周辺商店街を含むエリアの中で数時間の体験等が深く心に刻まれ、再びの訪問や多くの人々に自慢したくなるような体験を提供することができれば、地域全体の旅行消費額の向上や地域経済の活性化につながると考えます。

嘉穂劇場と周辺の商店街、そしてこのエリアを含む市内の周遊エリア全体で賑わいを生んでいくために、嘉穂劇場においてはイベントを定期的を開催するなど嘉穂劇場と周辺商店街、各店舗それぞれが魅力を発揮し、それらの相乗効果で新たな賑わいを創造していくことが重要であると考えます。

まとめ

(再開する嘉穂劇場について、一言で言い表せるようなキャッチコピーを使い、第7回までの委員会の協議内容をまとめるような形で整理することを想定)

Ⅱ 答申に至る協議・考え方の整理

1 嘉穂劇場の評価

(1) 文化財、芝居小屋としての評価

国登録有形文化財の嘉穂劇場について、活用検討委員会委員が共通認識をもって今後の活用方策について検討するため、嘉穂劇場とはどんな施設であるか、90年の歴史を持つ劇場の価値・評価等を明らかにする作業から始めました。

文化財としての評価、芝居小屋としての評価を下記のとおりまとめています。

① 文化財としての評価

- ・ 2006（平成18）年11月29日、福岡県42番目の国登録有形文化財に。
- ・ 「国土の歴史的景観に寄与する」嘉穂劇場としての評価を受ける。
- ・ 1931（昭和6）年に建てられた木造2階建ての芝居小屋で、明治期から昭和初期に筑豊地方につくられた劇場建築で唯一の遺構（希少性の評価）。
- ・ 建設当初の外観及び室内意匠と建築構造、そして芝居小屋の機能が現在に保存・継承されている（文化財の完全性）。
- ・ 近代の建築技術を組み合わせて、屋根を軽量化させて収容人数を上げた劇場建築であることも評価。
- ・ 文化財としての価値を保ちながら、活用を通して新たな価値を見出していくことがさらなる評価につながる。

② 芝居小屋としての評価

- ・ 1880年代の終わりごろから地方で爆発的に芝居小屋が増加し、筑豊には約50の劇場が開場。
- ・ 歌舞伎に加え、新派や家庭劇、喜劇、新劇、寄席や舞踊など様々な演目が行われるようになり、みんなの嗜好が多様化した真っ只中に（1931（昭和6）年）嘉穂劇場は建設される。
- ・ 芝居小屋の建設は、その時代の最先端の技術を用い、演目も社会の嗜好を反映（文化の発信地）。
- ・ 現存する芝居小屋の中で最も規模の大きい劇場。
- ・ 映画専門館やテレビの登場によって、多くの芝居小屋が他の目的に転用されたり閉館した中で、1930年代から劇場として途切れることなく運営されてきたことに非常に高い価値がある。

(2) 市民、関係者から見た評価

これまで嘉穂劇場の運営や利用に携わってこられた方々に、これまでの嘉穂劇場の評価とともに今後の嘉穂劇場はどうあるべきか、また嘉穂劇場に期待することなど伺い、今後、活用検討委員会で新たな活用策を審議する際の参考資料とするためにヒアリングを実施しました。概要は以下のとおりです。

① 対象者

嘉穂劇場をこれまで支援してこられた方、実際に嘉穂劇場を使用していた方、
周辺商店街、周辺住民の方など 18人（団体）

② ヒアリング期間

2022（令和4）年5月30日 ～ 2022（令和4）年7月8日

③ ヒアリング内容

これまでの嘉穂劇場との関わり、嘉穂劇場に対する『評価』・『思い』、
今後の嘉穂劇場に対する期待 等

④ ヒアリング結果（抜粋）

下記のとおり

<嘉穂劇場の評価>

- ✓ 嘉穂劇場は桝席や花道などが存在する無二の劇場であり、飯塚市民のシンボルになり得るものである。嘉穂劇場の「不便さ」を含め、このままの形で残してほしい。
- ✓ 嘉穂劇場は小屋主との一体感を感じる場所であった。嘉穂劇場はここにしかない劇場である。
- ✓ 桝席についてはフラットになればさらに活用の範囲が広がるのではないか。
- ✓ 嘉穂劇場は、子どもたちの教育の場、発表の場としても貴重な存在である。
- ✓ 嘉穂劇場は利用料が高額であったため、演劇の会場としての利用を考えたも、大道具を取扱う裏方の雇用経費が捻出できず、使いづらかった。
- ✓ 地元の商店街や地元住民においては、劇場との関わりが少なく、嘉穂劇場はどちらかといえば敷居の高い存在であった。

<今後の嘉穂劇場に期待すること>

- ✓ 大物の役者が定期的に使ってくれるような劇場になっていくことに加え、地域住民が利用できる施設であってほしい。
- ✓ 海外から人を呼びこむのに嘉穂劇場は身近で気軽に訪れ、文化に触れるこ

とができる施設としてもっと売り出したほうがよい。嘉穂劇場は観光資源としても必要な施設である。

- ✓ 劇場前の駐車場は広場など他の目的に使い、駐車場については周辺の民間事業者が経営する駐車場との連携を強化して確保すべき。
- ✓ 大型バスを利用する観光客の乗降場所は確保してほしい。
- ✓ 機材のデジタル化や映像による演出が可能になるような設備の導入、昭和40年代に整備された楽屋の改修を望む。
- ✓ これまで劇場と地域住民のつながりの歴史は残念ながらなかったが、今後施設を維持していくのであれば地域の人々が嘉穂劇場をバックアップしていく体制が必要ではないか。
- ✓ 市民が利用しやすい劇場であるよう、営利と非営利とで料金設定を分けるなどの工夫があってもいいのではないか。

<まちづくりの観点から>

- ✓ (イベント開催時のアンケートで) 嘉穂劇場の周りに店舗(食事処や土産物店等)がないのがネックとの回答あり。周辺のまちも盛り上がる企画が必要。
- ✓ 人流が増加することによって、空き店舗もお客様のニーズに合った店舗に変化していかなければならない。
- ✓ 劇場を保存することは簡単だが、維持して活用していくのは難しいことと思う。町内も世帯数が減少傾向にあり、隣組が機能しない場所も出てきた。町内としても、まちが元気になるような取り組みを期待する。
- ✓ 嘉穂劇場を単体で考えるのではなく、周辺部とが一体となって、まちで時間を過ごすことのできる空間づくり、賑わいづくりが必要である。
- ✓ 嘉穂劇場を核として文化を大切にす飯塚に愛着を持つ人が集まってくるまちづくりを進める必要がある。

これらのことから、嘉穂劇場の文化財としての評価と芝居小屋としての歴史、評価などを踏まえると、嘉穂劇場は本市の歴史を語り、文化的価値を生む、欠かせない施設であると捉えることができます。また、現存する芝居小屋の中では最も規模が大きく、希少性が高い施設であり、文化的にも地域経済的にも嘉穂劇場を核に本市に人を呼び込むことのできる可能性を持つ劇場であるということができ、嘉穂劇場は今後とも保存し、活用していくにふさわしい劇場であると考えます。

2 これからの嘉穂劇場が担っていく性格の整理

嘉穂劇場がこれまでに果たしてきた役割、そしてそれに伴う評価について、上記のとおり活用検討委員会内で共通認識に立ったのち、これからの嘉穂劇場が担っていく性格、期待する性格について協議し、次のとおり整理しました。

(1) これからの嘉穂劇場が担う性格

①劇場（芝居小屋）（文化施設）であること

- ・ 演者に扱われる施設であること
- ・ 観覧者が楽しめる施設であること

②公共施設であること

- ・ （施設の形態を生かした使い方であって、）文化施設・劇場として多目的に使える施設であること
- ・ 障がいのある方にも配慮した施設であること
- ・ 年齢を問わず、利用できる施設であること

③国内外の観光資源となり得るものであること

- ・ 劇場空間を楽しむ仕掛けがあること
- ・ 繰り返し訪問したくなる、あるいは訪問者が発信者となって新たな観光客を呼び込む仕掛けがあること
- ・ 観光客を呼び込む仕組みが儲かる仕組みにつながるものであること

④文化財であること

- ・ 創建時から今日までの形式・仕様（平面・構造・意匠等）を保存すること。万が一、活用に伴い部分的な変更が生じても、元の形に戻すことができること。
- ・ 地域の歴史を学ぶ、地域の文化を学ぶことが可能であること

嘉穂劇場は、災害により一時的な閉館はあったものの、これまで90年間にわたって途絶えることなく運営されてきたという他に類を見ない特徴を持った劇場です。この劇場から発信されてきた娯楽や芸能が地域の人々の心の支えとなり、今日までその役割を果たしてきたことを考えると、この施設が今後とも『劇場(※1)』としての性格を持ち

続けていくことをこの施設の基本の性格とします。なお、ヒアリングしたほとんどの方々からは、現存のままの保存、利用を希望する声が聞かれました。

そのうえで、劇場として使用しない時には、劇場の特異性を生かした市民ホール、文化ホール、アートスペースとして、市民をはじめ、市外の方々にも活用が可能となる多目的公共施設としての性格を持つ施設として整理します。歴史を感じさせるユニークな嘉穂劇場を生かして、最先端技術や観光等に関する MICE (※2) の誘致も可能ではないかと考えます。

一方で、嘉穂劇場は日本文化、日本芸能を伝える素材が多く残る施設であり、昭和時代を懐かしむ日本人はもちろんのこと、日本文化に関心を持つ外国人にも十分受け入れられる施設です。劇場のユニークさに加え、劇場を取り巻く地域の歴史を学び、新しい「体験」ができる観光資源として機能する施設であることが、劇場活用の幅を広げ、さらに劇場利用者を増やすことにつながると考えます。

最後に、これからも嘉穂劇場は文化財としての価値、性格をこのまま引き継いでいくことを期待します。嘉穂劇場は「国土の歴史的景観に寄与しているもの」という登録基準を満たし、国の登録有形文化財（建造物）となっています。これは、石炭により繁栄した筑豊の歴史と、娯楽を楽しんだ人々の暮らしと文化を伝える建築が今なお飯塚に残り、地域の豊かな歴史的景観に寄与する存在として評価されたものです。

このことから嘉穂劇場は、これまでの地域文化や変遷を伝える施設にとどまらず、芝居小屋の機能をこれからも維持し、活用していくことによってこれからの新しい文化創造の歴史を刻んでいく施設であると位置づけます。建設当初の外観をはじめ、室内意匠や建築構造、そして芝居小屋の機能を今日まで維持し続けてきた嘉穂劇場は、これからも新たな活用策を積み上げていくことで、文化財としての歴史を重ねていくことができると考えます。

※1)劇場とは・・・観客を集めて芸能を上演して見せる場所。(一般社団法人日本劇場技術者連盟 HP より)

※2)MICE とは・・・企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。(観光庁 HP より)

(2) 嘉穂劇場とコスモスコモンとの性格の整理

飯塚市の文化施設、観光資源において、上記の4つの性格をすべて持ち合わせる施設は嘉穂劇場以外にはありません。しかしながら、文化施設であり、公共施設である建物として、市内にはコスモスコモンが存在します。

これまでコスモスコモンと嘉穂劇場とのすみ分けについては、コスモスコモンが整備された当初、『嘉穂劇場はその存立の歴史と現状から、古典芸能・大衆芸能の専門劇場として、一方の市立文化ホールは、現代舞台文化に親しめるホールとして、つまり互いの施設は、車の両輪として飯塚市民の舞台文化を育み薦める場』(※)であると整理されていたようですが、これからは両者の役割を演目の整理にとどまらず、

『コスモスコモンは市民の文化に触れるすそ野を広げる役割をもつ施設として、一方、嘉穂劇場は他にはない飯塚の「とんがった(文化・芸能の)魅力」を引き出す施設』として役割・性格を整理し、両者の共存共栄が本市の文化振興の発展、地域の活性化に大いに寄与するものであると考えます。

3 これからの嘉穂劇場に期待されること(ターゲットと機能)

2で整理したこれからの嘉穂劇場の持つ性格から、これまでの活用検討委員会の中で多くの委員がイメージした利用者を整理し、これからの嘉穂劇場に期待するイメージを下記の表現で整理しました。ただし、この作業は下記以外の利用者を排除しようとするものではなく、改めて嘉穂劇場の利用者を再確認することで、嘉穂劇場をさらに特徴づけ、これからも多くの方々に大切にされ愛される施設として存在するための目標として整理したものです。

- ✓ 市民が利用でき、市民が誇れる劇場に
- ✓ 子どもたち・家族が思い出を作り、子どもたち・家族に愛される劇場に
- ✓ 演者から選ばれ、繰り返し使ってもらえる劇場に
- ✓ 外国人にとって日本文化を体感でき、大きな興味を持ってもらえる劇場に

(※) 飯塚文化連盟名誉会長小出氏寄稿『季刊高校演劇』(2013. 4)より抜粋

4 嘉穂劇場と地域経済の活性化

嘉穂劇場と地域経済との関係性について、劇場としての視点と観光資源としての視点から整理します。

(1) 劇場としての嘉穂劇場と地域経済の活性化

現在の嘉穂劇場周辺の人通りを確認すると、昭和通りや東町商店街の人通りは減少傾向にあり、市内の他の商店街と比較してもこの傾向は顕著です。

劇場は、一般的に休日や夕方から興行が行われることが多く、平日昼間の利用は少ない傾向にあります。このため、ややもすると市内に賑わいをもたらすはずの中心市街地に、嘉穂劇場を中心とした空洞化が生じかねません。加えて、このまま嘉穂劇場の休館が続けば、劇場を含む中心市街地の賑わいは低下し、地域経済・地域の活力の低下は容易に想像することができます。

嘉穂劇場が立地する周辺地域に賑わいをもたらすためには、これから再開する嘉穂劇場を平日いかに利用していくかが問われます。それは、市民が日常的にどれくらい嘉穂劇場を使い続けていくか、嘉穂劇場を利用することでどれだけ心の豊かさを体感することができるかにかかっています。

一方で、令和4年11月には郊外に大型農産物直売所であるカホテラスがオープンし、令和5年夏には菰田堀池地区にゆめタウンが開設される予定となっています。これらの大型商業施設は飯塚市に交流人口を増加させ、消費活動を活発にさせるメリットを大いにもたらしめます。この人の流れをチャンスにかえていくためには、カホテラスやゆめタウンではできないこと、例えば嘉穂劇場を中心としたイベントの定期開催によって、周辺エリアが一体となり商店街に賑わいをつくることも方策の一つと考えます。

かつて、嘉穂劇場では全国座長大会が開催されていた時に、商店街で役者の「お練り」が行われていました。お練りの実施は多くの関係団体が協力し、まちを盛り上げるという共通の目的のために実施されてきたものです。

これからも嘉穂劇場と周辺の商店街関係者、その他多くの関係者とがまちの賑わいづくりのためにイメージするゴールを共有し、多くの人に関わりながら、嘉穂劇場と周辺商店街のそれぞれが魅力を発揮し、それらの相乗効果で地域経済の活性化を図っていくことが重要です。

(2) 観光資源としての嘉穂劇場と地域経済の活性化

観光による消費はあらゆるサービスに及ぶため、地域経済への波及効果は大きなものがあります。嘉穂劇場は本市中心市街地に位置するとともに、周辺には江戸時代の長崎

街道の飯塚宿跡が存在し、史跡が残るエリアでもあります。このようなエリアで、飯塚市の文化・芸能の中心となる嘉穂劇場が中核的な施設として集客力を持つようになると、周辺の観光施設や商業施設との連携により大きな相乗効果、および経済的波及効果を発揮するだろうと予想できます。このため、さらに地域経済への波及効果を高めるためには、人々の滞在時間を長くする必要があります。

人々は、観光の際のエリア決めには芝居鑑賞や文化財、文化遺産の見学だけでなく、ショッピングや食事にも大きな関心を寄せます。嘉穂劇場の再開の際には周辺商店街でも人々が滞在・回遊し、時間も含めて消費できるような環境づくりが求められます。

飯塚市は、福岡市にも北九州市にも車で1時間以内で行ける位置にあるため、地理的に有利な条件も観光政策に生かすことができます。

飯塚市内宿泊による経済効果は勿論、他都市の宿泊観光客（国内外含む）に対しても劇場周辺での飲食・ショッピングや地域の強みを活かした体験プログラムなど数時間の滞在・周遊プランを提供することができれば、旅行消費額の向上につながり、地域経済への良好な影響を示していくことができると考えます。

5 再開のために取り組むべきこと

2、3 で整理した、これからの嘉穂劇場が担う性格と期待される役割を踏まえ、嘉穂劇場の再開に当たり、嘉穂劇場の有する文化的価値を損なうことなく、新たな活用により新たな価値を付加していくために考えるべき視点を以下の4項目に整理しました。

- ✓ 嘉穂劇場の合理的配慮の視点
- ✓ 多目的施設としての設備の工夫
- ✓ 舞台裏の整備など、演者から愛される施設となるために必要なこと
- ✓ 嘉穂劇場の運営を福岡市と北九州市などとの広域的な連携の視点で考えていくこと

- ・障がいのある方や正座のできない方に対する合理的配慮と江戸時代の歌舞伎様式をもつ芝居小屋の形をどこまで残していくか、この両者のバランスをどのようにとっていくか丁寧に考える必要がある。
- ・今の施設に利用制限があるのであれば、より多くのイベントや企画に対応できるように、本体に傷つけない程度の簡易的な取り外し可能なものを用意するなど工夫があったほうがよい。また桝席は、見学の際には桝席を見てもらうが、使うときには用途によって木枠をはずすことができるなど工夫できないだろうか。
- ・演者は手動の不便さも受け入れており、古き舞台機構は残していくべき。ただし、演者にとって舞台裏の快適さは必要なものとして、新しい機能を付加することを考えたほうがよい。
- ・嘉穂劇場は、飯塚市が福岡市にも北九州市にも近い距離にあり、福岡市や北九州市の劇場と連携することで、それら施設とは異なった演出の同一演目を嘉穂劇場で開催することができ、興行者にとっても観覧者にとってもメリットがあると感じる。より広域的な連携の視点で劇場運営について考えると利用価値が高まる。

上記の視点を踏まえ、活用検討委員会として、劇場の再開のために今後取り組む必要があると考えられることを、以下のとおり早期及び中長期の時間軸の中で検討項目として整理しました。

(1) ハードの視点から

① 再開までに早期に取り組むこと

- ・劇場の安全対策～屋根の改修と耐震対策
- ・観覧に関するバリアフリーへの対応～桝席の改善
- ・劇場前駐車場の見直しと多目的スペース化
- ・見学者、観光客を受け入れるソフト事業の準備（お土産・オリジナルグッズなどの商品開発、劇場案内の工夫（DVD等の用意）等）
- ・必要な舞台設備の改修（照明、音響、機器のデジタル化 等）
- ・快適な観覧環境・見学環境の整備（空調機器の再整備、見学ルートの整備 等）

~~・劇場周辺の駐車場管理者との連携策や地元商店街と一体となった賑わいづくりの検討（ソフト面）~~

~~・運営と管理の方法の検討・決定~~

② 中期的な視点で取り組むこと

- ・劇場内の文化的価値を有する資料（小道具、ポスター、チケット等）の整理と展示
- ・障がいのある方への合理的配慮～劇場展示館を1階に
- ・~~市民が劇場を応援したくなるしくみづくり~~

③ 長期的な視点で取り組むこと

- ・演者に喜んでもらえる施設であるための施設・設備改善（大道具の搬入の簡便さ、快適な楽屋の確保 等）
- ・周辺市街地と一体になって盛り上がりが醸成できる街並みや景観整備（ハード面）

(2) ソフト事業の視点から

(第7回委員会で協議した結果を整理し、記載することを想定)

6 嘉穂劇場再開に向けた様々な提案

(これまでの委員会において発言された、特徴的な内容について列記することを想定)

7 嘉穂劇場再開の時期について

嘉穂劇場が休館して1年以上経過しました。2021（令和3）年9月に飯塚市に贈与されましたが、90年もの間現役で運営を続けてきた嘉穂劇場は老朽化が進み、再開に当たっては耐震補強をはじめ早期の安全対策の取り組みが必要な状況となっています。

現在、飯塚市教育委員会では劇場の耐震調査及び耐震補強計画案の作成を2024（令和6）年2月末までの予定で実施しており、本格的な改修工事はその後に着手することとなります。

このままいけば、再開までには2～3年かかると見込まれますが、すでに休館して1年が経過しており、利用できない期間が長期にわたることを大変危惧しています。周辺に様々な施設ができ、利用者も新たな施設へと流れ、嘉穂劇場の存在を忘れられないか大変気がかりです。段階的に開場することも含め、少しでも嘉穂劇場の再開を早める方法を模索していくことを要望します。

結びに

かつて休館していた芝居小屋で再興を果たした施設に、内子座（愛媛県）や八千代座（熊本県）があります。これらの芝居小屋と嘉穂劇場との大きな違いは、内子座や八千代座が株主を募り、多くの有志で経営してきた施設であったのに対し、嘉穂劇場は長い間個人経営主が演者との大きな信頼関係を築きながら経営してきた点にあります。このため、演者にとって嘉穂劇場はとても思い入れのある劇場として、これまで多くの芸能人に愛されてきたものと考えます。

このような嘉穂劇場の現状は、劇場にとっては課題の一つとして捉えることができます。現状の嘉穂劇場は、ボランティアスタッフの運営で成り立っている施設がほとんどです。今後、どれだけ市民が「自分事」として主体的、持続的に劇場運営に関わってくれるか、そしてそのような市民とともに歩んでいくことができるかが、嘉穂劇場の未来に大きく関わっています。

本委員会は、今後、このテーマを含め、新たな嘉穂劇場の新たな活用策とともに、街なかの賑わいづくりや地域経済の活性化、そして地域文化の振興に嘉穂劇場がどのような役割を果たせるか、審議を深め、最終答申をまとめることとしています。

（第7回までの委員会開催結果をふまえ、整理することを想定）